

## 心門・医師中村哲記念館

- ニューヨーク・マンハッタン 世界における分断と門 -

日大生産工(院) ○谷口 真寛  
篠崎 健一

## 1. 研究の背景

今の世の中には世界の片隅、光の当たらない場所で世界のメインストリームの中に存在しない人々がいる。経済的な不平等、教育格差、地理的格差、社会的排除、デジタル格差など理由はさまざまである。

中央アジアと南アジアの交差点に位置する山岳地帯の内陸国であるアフガニスタンは紛争やテロ、貧困、干ばつなどの問題に悩まされている国の一つである。2000年、アフガニスタンで大干ばつが発生する。農地の砂漠化が進み、住民たちが次々と村を捨てた。水の不足により必要最低限の医療行為もままならない状況で、医師である中村哲は「100の診療所より一本の用水路を」と訴え、干ばつの悪化により、水不足・栄養失調・感染症に苦しむアフガニスタンの人々の生活を変えるため、その生涯をささげた<sup>1)</sup>。

## 2. 研究の目的

本修士設計では、中村哲医師（以下「中村」という）のパキスタン、アフガニスタンにおける人道・復興支援の記録を展示・保存する。中村が行ってきた活動と想いを世界へ向けて主張する記念館を設計する。訪れる者にとって世界の片隅に取り残されている人々に目を向けるきっかけとなる場をつくる。

## 3. 医師・中村哲

## 3.1 中村の生い立ち

中村哲は終戦翌年に福岡市で生まれる。伯父は芥川賞作家、火野葦平<sup>\*1</sup>である。祖父は、火野の小説「花と龍」のモデルとして知られ、北九州で石炭荷役業<sup>\*2</sup>を営んだ玉井金五郎<sup>\*3</sup>だ。幼少期は母方の祖母である玉井マン<sup>\*4</sup>のいる家に頻繁に出入りしていた<sup>\*5</sup>。

福岡市の西南学院中、福岡高に進み、1973年に九州大医学部を卒業後、佐賀県の国立肥前療養所（現・国立病院機構肥前精神医療センター）に勤務する。福岡県内の病院にも勤めた<sup>1)</sup>。このとき、アフガニスタン、パキスタンの国境にまたがる山<sup>\*6</sup>の登山隊に医師として参加したことが、両国に赴くきっかけとなる<sup>1)</sup>。

## 3.2 パキスタン・アフガニスタンの内情

中村はパキスタンに赴任し、キリスト教団体の派遣医として、パキスタン北西部ペシャワールの病院に赴任する<sup>\*7</sup>。ハンセン病患者<sup>\*8</sup>の診療に当たり、中村哲医師を支援する非政府組織「ペシャワール会」<sup>\*9</sup>も発足した。しかし、当初は医療器具と言えばトロリー車一台とピンセット数本、聴診器が一本ほどである。患者も自分で背負って搬送する。とても医療行為が行えるような環境とはいえない<sup>2)</sup>。

病院を訪れる患者の半数は、戦乱を逃れてき

\*1) 火野葦平は戦時中に自身の戦場での体験を出版し、ベストセラー作家となった。しかし、終戦後は戦争協力者として世間の非難を浴びた。苦しみ悩む姿を中村は間近で見ていた。中村が中学三年生の時、火野が睡眠薬による副毒自殺を遂げる。火野の死は中村の心に深く刻まれた。

\*2) マンと金五郎は裸一貫、一労働者から身を起こした叩き上げであった。子供の頃から玉井組では在日朝鮮人を雇用していたため、中村は子供の頃からそういう人々に対する差別を絶対にしてはいけないと言われており、それが当たり前であった。

\*3) 玉井金五郎は石炭を運ぶ公安労働者を取りまとめ玉井組を率いていた。

\*4) 玉井マンは中村にとって大きな存在であった。中村は祖母のことを「弱者は率先してかばうべきこと、職業に貴賤がないこと、どんな小さな生き物の命も尊ぶべきことなどは、みな祖母の教説を繰り返しているだけのことだと思うことがある」と述べている<sup>2)</sup>。

\*5) マンと金五郎はどんな境遇の人であろうと差別せず、手を差し伸べた。そんな姿を見て中村は育った。

\*6) パキスタンにある山、ティリチミール。標高は7,708mでヒンドゥークシュ山脈の最高峰である。

\*7) 学校に藤井さんという盲目の牧師が務める教会を紹介され、熱心に通うようになった。その後、洗礼を受け中村はクリスチャンとなった。

\*8) ハンセン病は、らい菌という抗酸菌がおこす慢性の感染症。おもに皮膚、末梢神経を侵すが、眼、鼻・のど・口などの粘膜、一部の内臓にも病変が生じる。

\*9) ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成された国際NGO(NPO)団体。中村の活動に賛同する同級生たちによってつくられた。

Dr. Tetsu Nakamura Memorial Museum  
- Archive in Manhattan, New York -

Mahiro TANIGUCHI, and Kenichi SHINOZAKI

た隣国アフガニスタンの難民である。中村はアフガニスタン山間部の無医地区の苦境を知り、国境の峠を越えて診療所を開設した。その後も活動地域を広げ、最も多い時期は両国の11カ所で診療所の運営を行った<sup>3)</sup> (Fig1)。



Fig.1 中村医師の診療の様子

2000年、アフガニスタンで大干ばつが発生する。農地の砂漠化が進み、住民たちは次々と村を捨てた。飢えと渇きの犠牲者の多くは子どもたちである。これを受け中村はかんがい事業を決意し、井戸掘りを始める。2006年までに建設された井戸は1600カ所にもものぼった<sup>3)</sup>。

2001年9月11日、米中枢同時テロ<sup>\*10</sup>の犯人をかくまったとして、米軍などがアフガニスタンを攻撃する。自衛隊による後方支援を可能とする特別措置法案<sup>\*11</sup>が国会で審議行われた。中村哲医師は参考人として特別委員会に出席した。中村は当地の実情を踏まえ「自衛隊派遣は現地の人々の日本に対する信頼を崩しかねない。有害無益でございます」と訴えた。すると政府の方針を否定されて腹をたてのた、自民党議員が「取り消しを」と中村に要求した<sup>1)</sup>。中村はやじを浴びながら淡々と説明を続けた。すると、この議員は「結構です」と中村の話途中で打ち切った<sup>3)</sup>。自分たちで「忌憚のないご意見を」と呼んでおいて、気に食わないとこの態度である。

### 3.3 砂漠を緑に変える一本の用水路

井戸掘りを進める中で直面した問題が地下水の枯渇である中村は地下水に頼るかんがいの限界を知り、用水路の建設に乗り出す。アフガニスタン・ジャララバードの東部にあるガンベリ砂漠<sup>\*12</sup>を横断する形で水路をひき、砂漠の大地を開墾する計画である (Fig2)。



Fig.2 マルワリード用水路計画概要

これにより死の谷とまで呼ばれたガンベリ砂漠は、一本の用水路によって生命を育む大地へと変わった (Fig.3)。



Fig.3 横断路開通直後とその後

2019年、中村はアフガニスタン政府から名誉市民権を授与された。造り続けてきた用水路で潤った土地は、約1万6500ヘクタールほどとなった。福岡市の約半分に及ぶ広さである。日本全国からペシャワール会に寄せられた浄財、共に汗を流したアフガニスタンと日本両国のスタッフが事業を支えた。しかし令和元年、市民権授与から2ヶ月後、アフガニスタン東部のジャララバードで、作業現場へ車で向かう途中に武装勢力に銃撃され、死亡。中村医師の信頼が厚かった運転手ザイヌッラ・モーサムさん (34) や護衛も亡くなった<sup>3)</sup>。

### 3.4 中村を讃える

中村はなぜ殺されたのだろうか。犯人からの犯行声明もなく、誰がどのような目的で殺害したのか真相は現在もわからないままである。しかし、どのような背景があるにせよ、中村は社会の軋轢の中で殺されたのだ。

中村は「誰もがそこへ行かぬから、我々がゆく。誰もしないから、我々がする」と語り、生涯をかけてパキスタン・アフガニスタンの人々を支援し続けた<sup>4)</sup>。中村とアフガンの人々とでガンベリ砂漠に建設した用水路が今もアフガニスタンの人々の生活を支え続けている<sup>5)</sup>。

\*10) アメリカ同時多発テロ事件、イスラム過激派テロ組織アルカイダによって行われたアメリカ合衆国に対するテロ攻撃。4機の旅客機が、ハイジャックされた。2機がニューヨークの世界貿易センタービルに、1機が首都ワシントン郊外の国防総省に次々と激突。もう1機は東部ペンシルベニア州に墜落した。

\*11) アメリカ同時多発テロの発生を契機として行われた対テロ対策を支援するために制定された日本の法律

\*12) ガンベリ砂漠は熱砂の谷である。人はここを「死の谷」と呼び、古来、多くの旅人を葬り去った。20キロの砂漠の彼方に、ラグマン州の緑地が蜃気楼のように霞んで近くに見える。その緑の光景に幻惑された者は迷い込み、水なし地獄で力尽きて斃れる。旧ソ連軍の戦車隊にさえ恐れられたこの砂漠を歩いていく者はいない。

\*13) 江戸時代に干ばつで苦しむ農民たちを救うため筑後川右岸の耕地を水田化するために設けられた井堰。

用水路建設により、緑が蘇ったガンベリ砂漠の東部には、緑化された公園内に中村の功績を讃える記念塔が建設された。また、日本にも、中村の知人によって浅口市に開かれた小さな資料館や、用水路を建設する際に参考にした山田堰<sup>\*13</sup>の近くに建設された記念碑などがある<sup>3)</sup> (Fig4)。しかし、日本において医師・中村哲を知るものは多くはない。



Fig. 4 中村の記念碑

筆者は中村の功績をアフガンや日本のみならず世界に周知するべきであると考え。

2001年、9.11米中核同時テロ<sup>\*10</sup>の報復からアメリカ、アフガニスタンの両国にとっての戦争は20年にも渡った。これらの痛ましい歴史は、世界における分断の最たるものである。しかし、中村とアフガンの人々は、分断の渦中にいながらも、乾ききった大地に水路をき、緑へと変えることで65万人にもものぼる人々の生活を救ったのだ。

この歴史と中村の意志を世界へと主張するのに適した舞台は、世界のメインストリームの第一線を担い続けてきたアメリカのニューヨーク・マンハッタンにおいて他にない。

## 4. 敷地の調査及び選定

### 4.1 計画敷地の選定

計画敷地はアメリカ・ニューヨーク・マンハッタン。タイムズスクエア近くのブロードウェイを跨いだ部分を含む2区画である (Fig. 6)。

敷地部分のブロードウェイ<sup>\*14</sup>はセントラルパーク近くのロータリーを境に、南方向に向けて一方通行となっており、なだたる劇場が多く並んでいる。ニューヨークの中心的場所である。

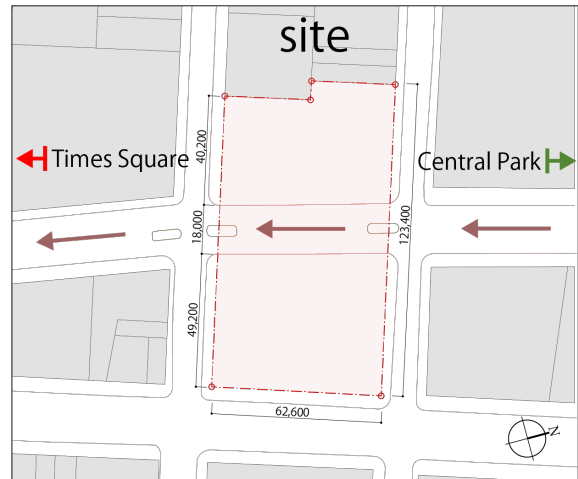


Fig. 6 計画敷地

### 4.2 マンハッタングリッド

マンハッタンの都市は特徴的な街路グリッドによって構成されている (Fig. 5)。SOM<sup>\*15</sup>の会長デイヴィット・チャイルズ氏はグリッドについて、「ニューヨークをニューヨークたらしめている唯一最大の特徴である。厳格なジオメトリーはともすると拘束的に作用

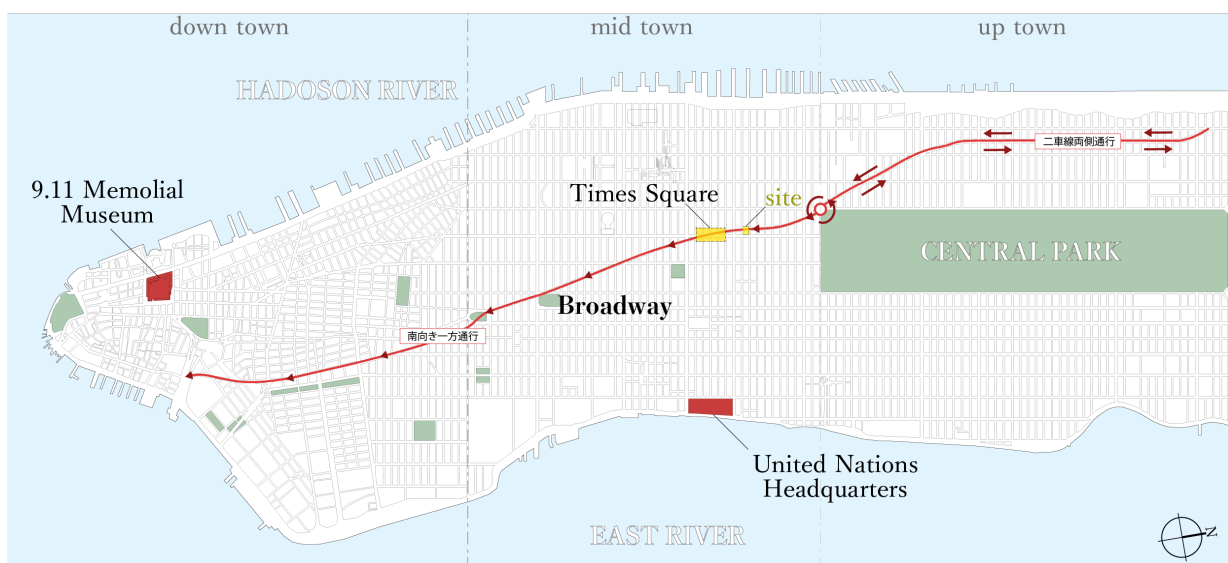


Fig. 5 ニューヨーク・マンハッタンの広域図

\*14) ニューヨーク州を南北に走る目抜き通り。一般に劇場街の意味で使われることが多い。

\*15) アメリカの大手組織設計事務所スキッドモア・オウイングス・アンド・メリル。



すると思われるが、実はこの没個性なグリッドが柔軟性を発揮するのである。」と述べている。マンハッタンは南北24Km, 東西4Kmで面積は65Km<sup>2</sup>の細長い島である。グリッドプランによって区画されており、標準的な1街区は17,131m<sup>2</sup>である<sup>8)</sup> (Fig. 7)。

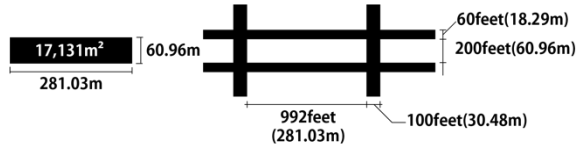


Fig. 7 グリッドプラン

東京と比べると、山手線内の面積がマンハッタンとほぼ同じである。また、東京ミッドタウンの敷地面積は、マンハッタンの4街区分に相当する。水平垂直方向に展開される盤面を唯一ブロードウェイが斜めに貫通する<sup>4)</sup>。

ニューヨークはこの均一化された都市基盤によって、独創的な建築が生まれ、膨れ上がる大都市人口のあらゆる欲望に応えることができるのである<sup>4)</sup>。

## 5. 建築としての門

門という象徴的な工作物を建築空間として扱う。門はその門自体の特性・性格として3つほどに分類することができるのではないかと。1つは通す門である。門の存在が意味を保つためには、門の内が何らかの意味で外と異なる意味のものでなければならない。言い換えれば、囲むことで確保された異質な領域の出入り口が門ということになる。その質の違いが敵と味方という場合もあれば、公と私という場合もある。ただ質の違いが曖昧なときに、通すための門はクローズアップされる。2つ目が止める門である。門はその遮蔽性から防御の目的からくる形であることは間違いないと言える。しかし、同時に、身分の差を視覚的に強調するものとして出来上がったとも考えられる。民から崇拜される人物は、一般の住居とは違う建物に住み、区別されるべき領域を確保していた<sup>10)</sup>。

そして3つ目が心の門である。止める門とは違い、視覚的な遮蔽性とは関係なくつくられるのが心理的な門である。もし、鳥居のように素朴なものだけが立っているだけだったとすれば、それは主に心がつく異質な領域、及びそのための門であると言える<sup>10)</sup>。

門は、人を通すことと拒むことなどの組み合わせであり、それを潜る時には、ある方向に心の変革を促す変換装置として門をとらえることができる<sup>10)</sup>。

## 6. 空間計画

この門は医師中村哲を讃える心門としてマンハッタンに佇む。この門が世界の分断の中、行動し続けた中村の意志を感じさせ、門の中の世界に身を委ねた瞬間、訪れる人に心境の変化を与える (Fig. 8)。

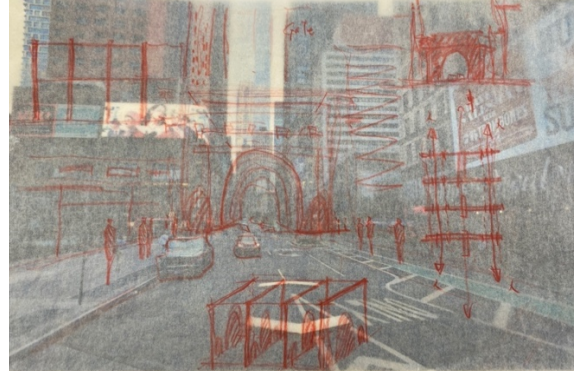


Fig. 8 立面パース

今後は、スタディを重ね、内部空間の展示計画・ファサードを更新するとともに、採光計画、開口部及び建具の検討を行い具体的な空間計画を進めていく。

### 参考文献

- 1) 西日本新聞メディアラボ, 中村哲医師特別医師サイト, (2020) [https://specials.nishinippon.co.jp/tetsu\\_nakamura/](https://specials.nishinippon.co.jp/tetsu_nakamura/) (参照2023-9-29)
- 2) 良心を束ねて河となす〜医師 中村哲73年の軌跡〜, NHK BS1, 2020-12-28, (テレビ番組)
- 3) 西日本新聞me, (2020), <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/670312/> (参照2023-10-9)
- 4) ペシャワール会/PMSについて, (2002) [http://www.peshawar-pms.com/index\\_pesha.html](http://www.peshawar-pms.com/index_pesha.html), (参照2023-10-7)
- 5) 中村哲, 天と共に在り-アフガニスタン30年の闘い, NHK出版, (2013), pp
- 6) 中村哲が14年に渡り雑誌「SHIT」に語った6万字, (2002)4月号, (参照2023-10-9)
- 7) 文春オンライン追悼・中村哲医師 「医療よりも水だ」人の死と向き合った徹底的な現場主義, (2019), <https://bunshun.jp/articles/-/17358> (参照2023-10-9)
- 8) 株式会社エーアンドユー, 特集マンハッタングリッド, a+u, 493巻, 10月号, 2011年, pp3-64
- 9) レム・コールハース, 錯乱のニューヨーク, 筑摩書房, (1999), pp26
- 10) 馬場瑛八郎, 和風建築シリーズ 門 数奇の意匠, 株式会社建築資料研究社, (1998), pp38-41